

受けていますか？

女性のための がん検診



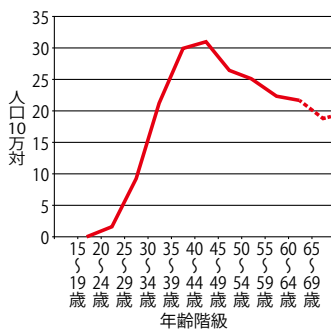
20歳以上
の人は…

子宮頸がん検診

20代後半から急増する

子宮頸がんは子宮の入り口（頸部）にできるがんで、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因でおこります。20代の後半以降から急増し、発症のピークは30～40代です。早期のうちには自覚症状がほとんどないので、検診で早期発見することが大切です。

■子宮頸がんの年齢別の罹患率



出典：国立がん研究センターがん情報サービス（2014年）

厚生労働省が推進している
検診の内容は…

対象者：20歳以上
頻度：2年に1回
検査方法：問診・視診・細胞診

●「細胞診」とは……ブラシやヘラなどで子宮の入り口を軽くこすり、細胞を採取して調べる検査です。痛みはほとんどなく10～15分程度ですみます。

40歳以上
の人は…

乳がん検診

11人に1人がかかるがん

乳がんは、女性のかかるがんでもっとも多く、日本人女性の11人に1人がかかるとされています*。30代からふえはじめ、発症のピークは、40代後半と60代の2つあります。女性の30歳から64歳では、死亡原因のトップとなっています。乳がん検診では、自己触診ではわからないごく小さな病変も発見することができます。

*国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」より

厚生労働省が推進している
検診の内容は…

対象者：40歳以上
頻度：2年に1回
検査方法：問診・視触診・マンモグラフィ

●「マンモグラフィ」とは……乳房専用のレントゲン検査で、1cm以下の小さながんや、がんの可能性のある数mmの石灰化も見つけることができます。乳房を2枚の板で挟み撮影します。

がん検診を受けるには…

ほとんどの市町村ではがん検診の費用を公費で補助しており、少ない自己負担でがん検診を受けることができます。詳細はお住いの市町村にお問い合わせください。加入している健康保険組合などでもがん検診を実施している場合がありますので、ご確認ください。

早期発見・早期治療で完治できる

子宮頸がん、乳がんともに定期的に検診を受け、早期発見・早期治療すれば、その多くが完治することができます。自分のために、そして家族のためにがん検診を受けましょう。